

第5章 西東京市におけるこれまでの取り組み

1 取り組み状況と問題点

西東京市における取り組み状況と問題点をまとめると、以下のようになります。

取り組み状況

市民団体が環境に関する活動を行うほか、環境に関する講習会を開催している。
市内のさまざまな場所で環境活動を実施している。
小学校の総合的な学習のテーマとして「環境」を取り上げている。
小学校と高校・大学が連携して、環境に取り組んでいる。
事業所が環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証を取得し、従業員への環境教育を行っている。
事業者が地域と連携して、環境保全活動に取り組んでいる。

問題点

環境に関する活動や講習会への参加者が増えない。
環境に関する活動をしたいが、何をしたらよいのかわからない。
地域で環境活動をしている人や団体を知りたいが、どこに聞けばよいのか分からない。
環境についていろいろと知りたいが、どこに行けば情報をえられるのか分からない。
小学校の総合的な学習のテーマとして「環境」を取り上げたいが、教師が環境について学ぶ時間がない。
環境マネジメントシステムの認証を取得したいが、費用や負担が心配だ。
環境のイベントを実施したいが、会場が見つからない。

2 取り組みの視点

西東京市における「環境学習基本方針における施策の方向性」と「取り組み状況と問題点」から、環境学習を進める際は、以下の5つの視点を重視して取り組みます。

(1) 人材の育成・活用

階層的な広がりを見せる環境問題を学ぶ際、環境に関する知識を持っている人や環境学習を進めるための資質を備えた人が必要です。そのため、これらの人材を育成するとともに、人材に関する情報を集積し、提供する仕組みを構築することが求められます。

(2) 機会の創出・提供

深刻化する地球温暖化問題の影響もあり、環境に対する市民の関心は高まっています。しかし、一人ひとりに目を向けると、まだまだ環境問題に無関心な人も多く、また関心を持っていても、どのように取り組んだらいいのかわからないといった人もいます。そのため、幅広い年齢層やそれぞれの関心の度合いに応じた環境学習の機会を創出し、一人ひとりの環境に対する関心や理解を深めてもらう機会を提供する必要があります。

(3) 場の活用

環境保全活動や環境学習活動は、エコプラザ西東京⁶などの環境関連施設や身近な自然フィールドで行われるとは限りません。そのため、家庭、職場、あるいは地域などあらゆる場において、環境について学び、環境をよくする活動に取り組んでいく意識を醸成していく必要があります。

(4) 情報の共有化

環境学習は、意識を共有した仲間と一緒に学ぶだけでなく、家庭や学校単位で学んだり、一人ひとりが個人的に学んだりする場合があります。そのため、それぞれの都合に合わせた十分な情報が得られる仕組みづくりが不可欠で、知らせたい情報をいかに適切かつ迅速に、より多くの人に伝えられるかも重要です。一方通行の提供ではなく、双方向の情報のやり取りや情報の共有化、ネットワーク化などの取り組みも必要になることから、紙ベースの情報誌やインターネットなどの情報通信技術を活用した情報の共有化を進める必要があります。

(5) 連携と協働の促進

家庭・学校・市民団体・事業者・行政などの各主体が、それぞれの立場で環境学習に取り組む際、各主体が連携・協働することで、環境学習の効果は格段に上がり、環境保全活動も広がりを見せます。そのため、各主体が連携し、協働するための仕組みを構築

⁶ エコプラザ西東京：現行計画では（仮称）リサイクルプラザ。平成19年6月に名称を公募し、正式名称がエコプラザ西東京となる。平成20年6月にオープン。

する必要があります。